

## 知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

## 劇団うりんこ Q & A

Q: 「うりんこ」って何のことですか？

A: イノシシの子どものことです。イノシシの子どもの体にはしまもようがあって、それがマクワウリににていることから、イノシシの子どものことを「ウリの子」＝「ウリンコ」と言うようになったのです。ウリンコのように元気よくまっすぐに走っていこうという思いで、「劇団うりんこ」という名前を選びました。

Q: うりんこはどんな劇団ですか？

A: 子どもや若者が生き生きと夢を持って生きていくことを願って、お芝居を演じています。そのために、お芝居だけでなく、教育の問題や子どもの文化についての活動も幅広く行っています。うりんこ劇場という小さなホールで、クリスマス公演、夏休み子ども劇場など、楽しいお芝居を地域のファミリーに向けて演じたり、コンサートを開いたりしています。劇団うりんこの創立は1973年、うりんこ劇場は1986年に出来ました。

## 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業

巡回公演事業



# 学校ウサギを つかまえる

原作・絵 ■ 岡田 淳 「学校ウサギをつかまえる」 偕成社 脚本・演出 ■ 田辺 剛 (下鴨車窓)  
美術 ■ 方勝 照明 ■ 四方あさお 衣裳 ■ 木場絵理香 音楽・音響 ■ ノノヤママナコ  
振付 ■ 下出祐子 宣伝美術 ■ 伊藤祐基

## 「文化芸術による子供育成総合事業 -巡回公演事業-」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



とど 届きそうとどで届かない、すぐそこなのに。

劇団 三りんこ



「よしいけっ！」

「さん、に、いち。」



「真ん中に戻っちゃった。」



「手、噛まない？」



「ゆっくりゆっくり。」



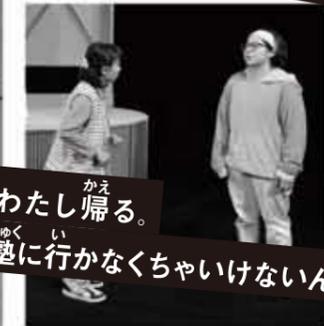
「もう一度！」



「しいくとうばん だれ 飼育当番、誰？」

「美佐子だよ。」

「あの暗い美佐子か。」



「わたし帰る。 塾に行かなくちゃいけないんだ。」



「ヒモでさ、罟を作るのはどう？」

「ダメだ。ウサギもバカじゃない。」



「ウサギ、イタチに 食べられちゃうかな。」

「食べられなくても寒さで死ぬなあ。」



「キャベツにつられてこっちに来てる。」



「山田あ！来てくれたのかあ！」

ぎくしゃくしながらも、しだいに力を合わせていく子どもたち。その心の交流、そして訪れる一体感を描きます。

学校  
ウサギを  
つかまえる

「みんなありがとう！自分もありがとう！」というキラキラした気持ちを、劇を観てくれるみなさんも一緒に感じてくれたらうれしいです。

この劇は、学校から逃げ出したウサギをみんなで捕まえるお話です。生きていくウサギを捕まえるには汗もかくし、服も汚れます。チームワークや判断力、行動力も必要です。一緒に考えたり試したりするうちに、教室とは違う友だちの姿に驚いたり見直したりもします。そしてみんなの気持ちには、だんだん一つになっていきます。

MESSAGE  
かと一緒に夢中で何かを成し遂げた時に感じる「みんなありがとう！自分もありがとう！」という気持ちは、大人になっても忘れられない宝物です。

STORY  
下校時間午後4時すぎ。4年3組の子どもたちが、公民館の裏庭の工事現場にウサギが駆け込むところを目撃！学校にある飼育小屋の最後の二匹に違いない。子ども達のウサギ捜索が始まった。  
ウサギは、なかなか捕まらない。長い棒で追いやろうとしたりエサをあげたり、あの手この手を試すうちに日も暮れてきた。どうやってウサギを捕まえるか？話しているうちに教室では分からない友達の素顔を知り、子どもたちの気持ちはやがて一つになっていく。